

高知工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	建築史
科目基礎情報					
科目番号	V3051	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	SD まちづくり・防災コース	対象学年	3		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 学びのポイント 建築史 (学芸出版社)				
担当教員	北山 めぐみ				
到達目標					
【到達目標】 1. 日本における各時代の建築様式について理解し、部材名を説明できる。 2. 日本における各時代の住宅について理解し説明できる。 3. 西洋における各時代の代表的建築名を挙げ、その背景や特徴を理解し説明できる。 4. 近代建築の背景や過程を理解し、代表的作品を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標1	日本における各時代の建築様式について図の表現を用いて説明できる。	日本における各時代の建築様式について理解し、部材名を説明できる。	日本における各時代の建築様式について、理解が不十分で説明できない。		
到達目標2	日本における各時代の住宅について、その背景や特徴を体系的に理解し説明できる。	日本における各時代の住宅について、その背景や特徴を理解し説明できる。	日本における各時代の住宅について、理解が不十分で説明できない。		
到達目標3	西洋における各時代の代表的建築名を挙げ、その背景や特徴を体系的に説明できる。	西洋における各時代の代表的建築名を挙げ、その背景や特徴を理解し説明できる。	西洋における各時代の背景や特徴について、理解が不十分で説明できない。		
到達目標4	近代建築の背景や過程を理解し、代表的作品を複数説明できる。	近代建築の背景や過程を理解し、代表的作品を説明できる。	近代建築の背景や過程について、理解が不十分で説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達目標 (C)					
教育方法等					
概要	建築の歴史を学ぶことは、先人たちによるそれぞれの時代における試行錯誤の跡を確認することである。過去に目を向ける態度から、現在、さらには未来にあるべき建築とは何かを見定める見識と知恵となる基礎的教養を身につける。				
授業の進め方・方法	教科書「学びのポイント 建築史」およびスライドを併用した講義とする。事前に教科書を読むことで基本的な事柄や用語を学び、講義によって理解を深め、知識の向上を図る。毎回の小テストにより事前学習の確認を行う。また、レポート及び調べ学習により建築史への興味・関心を深める。				
注意点	<p>【成績評価の基準・方法】 教育到達目標 2(B), JABEE新基準1(2)(d) により習得した能力を下記の基準で評価する。 試験の成績60%, 小テスト20%, レポート20%の割合で総合的に評価する。 技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。</p> <p>【学修単位科目 (授業時間外の学習時間等)】 本科目は学修単位のため、以下の標準学修時間を設定した自主学習を累計45時間分以上実施して提出しなければ、成績が60点を超えた場合でも59点として扱い単位を認定しない。 ・全15回の授業に対して、1時間分の事前学習と0.5時間の事後学習。計30時間分。 ・中間試験および期末試験に対してそれぞれ試験勉強のための課題学習4時間。計8時間分。 ・連休期間及び調べ学習として、総まとめ課題7時間分。</p> <p>【事前・事後学習】 事前学習: 教科書の次回学習部分を読み、重要な部分にライン引きを行う。事前学習テストにより学習状況を確認する。 事後学習: 授業内で配布するプリントに講義の要点をまとめ、提出により理解度を確認する。</p> <p>【履修上の注意】 身の回りの建築や構造物に興味を持ち、関連づけを考察することで理解が深まる。授業外においても建築や地域を見る目を養う機会としてもらいたい。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・日本建築史導入	建築史を学ぶ意義を理解するとともに、日本建築史の大きな流れを説明できる。	
		2週	日本建築史	原始 (旧石器、縄文、弥生、古墳時代) の住宅について理解し説明できる。	
		3週	日本建築史	神社建築について理解し説明できる。	
		4週	日本建築史	仏教建築について理解し説明できる。	
		5週	日本建築史	古代、中世の都市と住宅について理解し説明できる。	
		6週	日本建築史	城郭・茶室建築について理解し説明できる。	
		7週	日本建築史	中世～近世の庶民の住宅について理解し説明できる。	
		8週	中間試験の返却と解説・西洋建築史導入	中間試験までの内容を定着し、日本建築史の流れを説明できる。 西洋建築史の大きな流れを説明できる。	
	4thQ	9週	西洋建築史	古代オリエント・エジプト建築、ギリシャ・ローマ建築について理解し説明できる。	
		10週	西洋建築史	ビザンチン・ロマネスク・ゴシック建築について理解し説明できる。	
		11週	西洋建築史	ルネサンス・バロック・ロココ建築について理解し説明できる。	

		12週	近代建築史	西洋：産業革命以降の建築・近代建築運動について説明し理解できる。
		13週	近代建築史	日本：洋風建築と新しい建築技術の導入について理解し説明できる。
		14週	近代建築史	戦後のモダニズム・ポストモダニズム建築について理解し説明できる。
		15週	プレゼンテーション	好きな建築についてプレゼンテーションを行う。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	材料	建築材料の変遷や発展について説明できる。	2	後1,後8
			構造	建築構造の成り立ちを説明できる。	2	後1,後8
			計画・歴史	古代(例えば、エジプト、オリエント、エーゲ海、ギリシャ、ローマなど)の特徴について説明できる。	3	後1,後9,後15
				中世(例えば、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシックなど)の特徴について説明できる。	3	後10,後15
				近世(例えば、ルネサンス、マニエリスム、バロック、ロココなど)の特徴について説明できる。	3	後11,後15
				原始(例えば、竪穴住居、高床建築、集落など)の特徴について説明できる。	3	後2,後15
				古代(例えば、住宅建築、寝殿造、都市計画、神社建築、寺院建築など)の特徴について説明できる。	3	後2,後3,後4,後15
				中世(例えば、住宅建築、神社建築、寺院建築(大仏様、禅宗様、折衷様など))の特徴について説明できる。	3	後3,後4,後5,後7,後15
				近世(例えば、住宅建築、書院造、数寄屋風書院、町屋、農家、茶室、霊廟、社寺建築、城郭)の特徴について説明できる。	3	後6,後7,後15
				日本および海外における近現代の建築様式の特徴について説明できる。	3	後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	50	20	20	90
分野横断的能力	10	0	0	10